

SSKO



40th Anniversary

おあしす通信

編集 キープハート(おあしすの事業を支える市民の会)

2023年 6月号



北砂4丁目に
オープンした
リサイクルショップ
おあしす

※詳しくは、2・3ページをご覧ください

社会福祉法人
おあしす福祉会

〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6
TEL 03-5690-5959
<http://www.oasisfukushi.or.jp/>



就労継続支援B型事業所

- オアシス・プラス 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-2 TEL 03-5646-7811
- コム・オアシス 〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959

多機能型（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）事業所

- ピアワーク・オアシス 〒135-0001 東京都江東区毛利1-7-3 TEL 03-5638-1775

地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助

- ウィル・オアシス 〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル4階 TEL 03-6284-0545

共同生活援助事業（グループホーム）■第2クローバーハウス

おあしす利用者家族の会「杏の会」

公益事業

- 住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）

〒136-0073 東京都江東区北砂1-5-20東陽町ダイヤモンドパレス2階204 TEL 070-6435-5374

さよなら北砂3丁目リサイクルショップ・オアシス ～25年間の思い出がいっぱい～

リサイクルショップ・オアシスは1997年に砂町銀座商店街のそば、北砂3丁目にオープンしました。当時の利用者・職員が一緒になって店舗の壁のペンキ塗りやピータイル貼り、商品棚やレジテーブル、装飾品としてのステンドグラスなどすべてを手作りで準備した温もりを感じることができる雰囲気のお店です。扱っている商品は日本全国の協力者から提供していただいた衣類や生活雑貨、食器など多岐にわたります。シミや汚れ、壊れているものはないか検品をおこなって値付け、販売をしています。

オープン当初から『利用者がいきいきと働ける』『地域に支えられ、地域に貢献できる』というコンセプトを大切にしながら、25年間営業を続けてきました。

昨年春、建物の老朽化に伴う建て替えが決まり、当面の間は移転をして営業することになりました。

北砂3丁目での最後の営業は3月20日。その後およそ10日間で店内の片付けをしました。懐かしいものがでてきたり、お店で働いた思い出などを利用者から話を聞きましたので、ご紹介します。

【 お店で働いてきた利用者の声 】

□長く働いた場所がなくなるのはさみしい

私はリサイクルショップで10年ほど働いています。以前はブラインド会社で仕事をしていたのですが退職したあと、またおあしすで働くようになりました。毎日たくさんのお客さんがきてくれ、常連さんや顔なじみになるお客さんもいて、よく買ってもらいました。1日で3万円以上の売り上げを達成した日のことがとても印象に残っています。みんなで頑張ったのでとても嬉しかったです。北砂3丁目の店では長年働いたので取り壊しになると聞いて、すごく寂しかったです。

（利用者 Aさん）

□お客さんに声をかけてもらえて嬉しかった

お店を閉店することになり、今までお店で販売していた衣類・雑貨・食器などの商品を引き下げました。特に棚に並んでいる全ての食器を新聞紙で包むのがとても大変でした。商品がすべてなくなったあとにはドライバーでねじを外したりして棚の解体作業もおこないました。たくさんの部品がでてきたけど、職員と一緒に棚と部品をひとまとめに保管しました。いざ、閉店するとなるとさみしくて、まだここで営業できればいいのになと思いました。常連さんと話すようになって「こんにちわ」って声をかけてもらい話をするのが楽しかったんです。お店がなくなるわけではないけど、いろんな思い出がある場所が変わってしまうのはとてもさみしく感じました。それでも1年後には新しくなったこの場所に帰って来ることを楽しみだと思っています。

（利用者 Bさん）

□たくさんの人に支えられたお店だった

私がリサイクルショップで働いてとても印象に残っているのは、東日本大震災後、新聞を通じて提供品を募集したところ、日本全国からたくさんの品物が届いたことです。ありがたかったし、こんなにたくさんの人たちが私たちの活動について考えてくれているんだと思いました。その後、東北の障がい者施設で作られたお菓子やコーヒーなどを仕入れて販売しました。たくさんのお客様にご来店いただき、とても嬉しかったです。

今回お店の建て替えをすることになりました。手づくりのステンドグラスがあったり、当時工事をした方の名前が残されていたりして、とても歴史を感じることができる店舗だったと思います。

（利用者 Cさん）



↑→お店の入口に飾られたステンドグラス。開店祝いにオアシスプランニングの利用者から贈られたものです



↓旧リサイクルショップ・オアシス最終日の店内



↑お店で販売していた商品・備品が次々と山積みになっていきました

7坪の小さなお店からはじまる人と人とのつながり ～地域の人々に愛されるお店を目指して～

□5月10日に新店舗の営業開始！

5月連休明け、ようやく工事が終わりキレイに壁や床を張り替えた新店舗が完成しました。急ピッチで棚や商品を運びこみ、オープン準備を進めます。オープン当日になっても開店の準備が終わらず利用者・職員総出でギリギリまで商品の品出しをおこないました。すべての準備が整ったのはお店のオープンわずか1時間30分前でした。

□オープン当日のお客様はなんと100人！

5月10日13時におよそ2ヶ月ぶりにリサイクルショップの営業を再開。オープン前から10名ほどの方が並んでおり、お店を開けた瞬間にたくさんのお客様で店内がいっぱいになりました。その後も次から次へとお客様が来店され、中には常連のお客様や「お店の貼り紙をみて、ずっと楽しみにしていたの」という新しいお客様もいました。再開初日はわずか3時間でおおよそ100名のお客様にお買い上げいただきました。

□お客さんの多さにびっくり！

お店がオープンした日に、お店へ納品に行きました。店内のお客さんの列がすごくてびっくりしました。ガレージセールの時に、「いつ開くの？」とよく聞かれました。たくさんの方がお店のオープンを待っていてくれるんだと思いました。その日の売上額が過去最高額に達したと聞いて驚きました。これからもみんなで協力して、お店を盛り上げていきたいです。（利用者 Dさん）

□これからのリサイクルショップおあしす

北砂4丁目での営業はまだ始めたばかり。まだまだ慣れないことがたくさんありますが、営業を続けていきます。以前のお店に比べたらお店のサイズは小さくなり、置くことができる商品数も少なくなっていました。それでも「この場所、やっぱりいいね」「砂町銀座の入り口で人通りが多いし、いろんな人が覗いてくれるよ」「品出しの間隔を短くしたら、来てくれるお客様も面白いんじゃないかな」など利用者たちはたくさんの意見を出してくれています。毎日商品を入れ替えてお客様に楽しんでいただけるよう、みんなで頑張って営業をしています。お近くにきた際には、ぜひご来店ください。

今年度私たちは店舗での販売だけでなく、江東区や近隣でおこなわれるフリーマーケットやマルシェへの出店、すでに声をかけていただいている新規出店販売などの様々な形で活動を増やしていきます。これらの活動を通して利用者と地域住民が、知り合い・共に支え合うことができるきっかけとしていきたいと思っています。（加賀 めぐみ）



◆リサイクルショップおあしすからのお知らせ◆

リサイクルショップおあしすでは提供品・フードドライブの食品を募集しております。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

また、リサイクルショップの最新情報はTwitterで発信しています。

ぜひ、ご確認ください。



新リサイクルショップおあしすの外観（左）と店内（右）

★リサイクルショップおあしす★

住所：江東区北砂4-1-14高梨ビル1階
アクセス：都バス07門前仲町行・錦糸町行
「北砂2丁目」下車徒歩1分

営業時間：月曜日～金曜日
10：00～16：00
毎月第2,4土曜日
10：00～15：00

子どもたちからおもちゃのリクエストが届きました ～子どもたちに木のおもちゃを贈る活動～

あたりまえだと思っていた日常が、病気によって脅かされている子どもたちとそこへご家族がいます。そんな子どもたちやご家族の力にすこしでもなれたら・・・と考え、2022年秋より公益財団法人がんの子どもを守る会（以下がんの子どもを守る会）のご協力のもと、がんをたたかう子どもたちとご家族へおもちゃをつかってプレゼントをしています。

病気とたたかう子どもとごきょうだいへ おもちゃをプレゼントしたい

今年の3月より、がんの子どもを守る会が運営するアフラックペアレンツハウスを利用する子どもたちやご家族からおもちゃのリクエストを募ることにしました。アフラックペアレンツハウスとは、自宅から離れた病院で治療を受ける子どもとご家族が利用できる宿泊施設です。子どものがんの治療ができる病院は少なく、やむなくごきょうだいを自宅に残してペアレンツハウスに宿泊されるご家族もいらっしゃるとのこと。わたしたちは病気とたたかう子どもたちをはじめ、ご自宅で快復を待ち望むごきょうだいへもおもちゃをプレゼントしていきたいと考えました。

こんなおもちゃがほしい！

おもちゃのリクエスト

●どんなおもちゃがほしいか しかく のなかに書いてね



※おもちゃのイメージが浮かばない場合は、裏面を参考にしていただけたらと思います

●以下についても教えていただけるとうれしいです

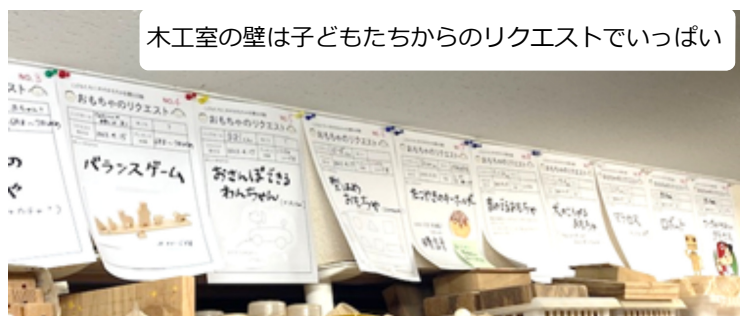
お子さんのニックネーム	プレゼント時期のご希望
自由記述欄	

🍀🍀🍀 つくり手一同、リクエストを心待ちにしています 🍀🍀🍀

おもちゃをつくるのは、おあしす福祉会に通い社会復帰を目指す人たちです。様々な困難をきっかけにこころのバランスを崩してしまいましたが、木のおもちゃづくりを通して自信を取り戻し、社会参加を願って日々努力しています。こどもたちのリクエストに応えることは、製作者の喜びであり回復にもつながります。

社会福祉法人おあしす福祉会 ピアワーク・オアシス

おもちゃのリクエスト用紙



子どもたちからリクエストが届いた！

4月に入って「音のでるおもちゃ（ギロ）をお願いします」というFAXが届きました。「いつ届くかな」とみんなで心待ちにしていたリクエスト。「届いたってよ！」と利用者から利用者へと瞬く間に広がっていききました。

木工室の壁には『お散歩できるワンちゃん』『どうぶつか恐竜の型はめ』『家族みんなで過ごす部屋で使う掛け時計』・・・と13枚のリクエスト用紙が並んでいます。リクエストを申し込んでくれた子どもやご家族に想いを馳せて、さあ、おもちゃづくりにとりかかります。

子どもたちのうれしい反応

一番はじめにリクエストをくれたお子さんへ、ワニのギロをプレゼント。音楽の授業でプレゼントしたギロを使ってくれているらしく、授業に楽しく参加できているとお話を伺いました。

また、わたしたちは自宅で家族の帰りを待つごきょうだいにもプレゼントをしたいと考えていますが、あるご姉妹のお姉ちゃんは「わたしは大丈夫」と遠慮をされたそう。そこでアフラックペアレンツハウスの職員さんが、ご姉妹に『応援ロボット』をお渡しすると、“おそろい”にふたりで顔を見合わせて笑顔になられたとのこと。そんなお子さんたちの姿を思い浮かべると、わたしたちは胸がいっぱいになるのです。

つくり手である利用者の自信へとつながる

がんばりたかう子どもたちとごきょうだいの力にすこしでもなれたら・・・とおもちゃづくりに力を注ぐことは、つくり手である利用者の回復に寄与すると考えます。

子どもたちからのリクエストに応えようとする利用者の姿は、いつものおもちゃづくりとはすこし違います。「組立の作業って失敗したらとり返しがつかないんじゃないかと不安」「やすりがけはコツがつかめなくて苦手」と、それぞれ作業に苦手意識があるようなのですが、「待っている子どもたちのためなら」とさまざまな工程にチャレンジしようとする姿が見られます。また、「不器用だから自信がない」と普段はおもちゃづくりには携わっていない利用者が「自分にできることをしたい」と声をあげてくれることも。子どもたちの力になりたいという気持ちが、原動力になっていると感じます。

つくったおもちゃを手にしたお子さんが喜んでくれたら、それはつくり手である利用者の励みとなり、心の支えとなるのではないのでしょうか。そして、これまで誰かのサポートを受けることが多かった利用者にとって、自分の携わった仕事が誰かの力となり支えになれたという経験は、大きな自信につながると考えます。

（瀧下 春菜）



プレゼントしたワニのギロ
（写真上）



リクエスト用紙にそえて『応援ロボット』をプレゼント
（写真左）



こどもたち応援ロボット

「できることなら、いろんなかたちで子どもたちを応援したいね」という利用者の声から、『こどもたち応援ロボット』が誕生しました。

“ふたつボタン”が目印のこちらのロボットチャームをご購入いただくと、500円は公益財団法人がんの子どもを守る会へ寄付されます。

店頭販売価格

1,000円（税込）

ネット販売価格

1,500円（税込）



『子どもたちに木のおもちゃを贈る活動』は、みなさまからの協賛金で活動を継続することができています。協賛金は、木のおもちゃの送料や材料費として使わせていただきます。多くの方のみなさまに活動へお力添えをいただくと、大変ありがたく思います。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

※詳しくは同封のチラシをご覧ください

東京23FCキャプテン 清水選手がおあしすにやってきた！ ～缶バッジ製作がご縁で東京23FCとおあしすが交流～



「キャプテン光(ひかる)」おあしすに登場！

「こんにちはー！」

さわやかな声がして精悍な顔つきの若者がおあしすに現れた。赤いジャージがよく似合うその人はサッカーチーム 東京23FCのキャプテン、清水光（しみずひかる）選手だ。初対面にもかかわらず人懐こい笑顔で挨拶を交わし利用者たちとの距離感があっという間に縮まった。さすがキャプテン、人を惹きつけるものを持っている。

きっかけは缶バッジ

東京23FCは「東京23区という地域社会」から世界に通用するフットボールクラブを目指して結成され、現在は関東サッカーリーグ1部を戦うチーム。昨年度、明治安田生命様の依頼でチームエンブレムの缶バッジを製作したご縁で今回は選手の皆さんと監督の缶バッジを作ることになった。缶バッジはホームゲームの会場で販売される。清水選手には自身の写真とサインが入ったスペシャル缶バッジを自らの手で作るということで来てもらった。



自身のサイン入り缶バッジを完成！

清水選手、缶バッジ作りに挑戦

「実は小学校の時にサッカーチームに入っていた」「兄がサッカーをやっていた」などという利用者とのやりとりで盛り上がりながら、さっそく缶バッジ作りに挑戦してもらった。サッカーでは2021年の得点王もここでは初心者。恐る恐る材料を手にとり、自分の顔写真の缶バッジを利用者の指導で作ってみる。慣れない手つきで不安げだぞ、清水選手。

「え？本当にこれでいいんですか？」「大丈夫ですか？大丈夫ですよ？」「難しいな、これ」「できてます？できました？やった！」

自信なげな缶バッジ作り、ピッチ上のかっこいい姿と違ってなんだか可愛いぞ、清水選手。

大騒ぎの中、スペシャルシークレットのサイン入り缶バッジが完成した。帰り際にはサイン入りポスターをくださった上、自分用にとキーホルダーまでお買い上げいただいた。

後日、クラブから再び依頼をいただき別の事業所でおこなったチラシの仕分け作業にまで参加してもらった。「かっこいい！」の声に迎えられ、そこでも時間を忘れるくらい夢中になって利用者と一緒にチラシを数えてくれた。なんていい人なんだ。ありがとう、清水選手。



ホームゲームで勝利！

4月1日と5月27日、スピアーズえどりくフィールド（江戸川区陸上競技場）での試合に利用者とともにご招待いただいた。2試合とも息詰まる攻防の末、東京23FCが勝利！特に2戦目の南葛SC戦では2,357名もの観客が見守る中、ヘディングによる見事なゴールを決めたのが清水選手！これが決勝点となった。

東京23FCは「スポーツが持つあらゆる可能性にチャレンジし、地域社会に貢献するフットボールクラブ」を目指している。その活動はスポーツと福祉という分野の違いはあっても「誰もが役割を持って当たり前前に暮らせる地域社会の実現」を目指す当法人の活動に通じるものがある。おあしすはそんな東京23FCとこれからも協力し合っていきたい。清水選手、東京23FCの皆様、チームとのご縁をくださった明治安田生命様、そして清水選手の訪問をコーディネートしてくださったSAMEYA 高瀬拓海さんに心からお礼申し上げます。（武藤 康司）



繋がり広がる「木のおもちゃの販売&ワークショップ」 ～地域のカフェで木のおもちゃを通じた社会参加～

江東区を拠点に共生創造社会の実現に向けて多様なネットワークを紡ぐNPO法人「でいぐらぶ」様にご協力いただき、2つのイベントにおいて、ピアワーク・オアシスで製作している木のおもちゃの販売と木工体験ワークショップをおこなってきました。

もんなか がっちゃん's CAFE & SPACE

特別出店

門前仲町駅にあるカフェには、誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティスペースがあり、3/18～21の4日間、木のおもちゃの販売と体験ワークショップをおこないました。

来店者には、岩手県宮古市の障害者施設みやこワーク・ステーションのコーヒーを利用者が入れて無料サービスするなどの試みもあり、地域の方々との交流も楽しみながらの出店でした。



Kotomazu Park @ KIBACO イベント出店

5/3～5に開催されたKotomazu Park @ KIBACOに、4日と5日の2日間出店しました。会場となった都立木場公園内のカフェ「Park Community KIBACO」では、多様性と共生社会の実現に向けた地域の交流の場づくりイベントとして、障がい者施設製品の販売や「子ども達に贈りたい共生社会」をテーマとしたトークショーも開催されました。晴天に恵まれて、19名のワークショップ参加者もあり、子どもたちの声があふれるイベントとなりました。（KIBACOでは、木のおもちゃの常設販売もしていただいています）

木のおもちゃを子ども達と一緒に作ろう

2つのイベントでは、販売だけでなくワークショップもおこないました。「初めて会う子ども達やお客様に、どのようにおもちゃの作り方を説明したら良いのだろう…」と戸惑った利用者も、何名か対応をしていくうちに「次は最後に『ありがとうございました！』と言ってみよう」「Aさんの教え方良いね」など、仲間同士で相談しながら、少しずつ教え方を変えていく姿が見られました。

お客様からは「実際に作ってみてから商品を見ると、やすりがけの丁寧さが分かるね」といったコメントや、子どもたちが小さな手で一生懸命やすりがけし、完成したおもちゃを嬉しそうに抱えていた姿を見て温かい気持ちになりました。



木のおもちゃの販売&木工体験ワークショップを社会参加のきっかけに

おあしす福祉会を利用する方の中には、様々な理由から人との関わりに不安を感じる方もいらっしゃいます。不安に思いながらも「人と関わりたい」「働きたい」「社会で必要とされたい」といった思いを持っている方も沢山います。そんな方にとってイベント販売やワークショップは、社会参加のきっかけとして貴重な機会になります。販売を通して新しい経験を積み「地域に出るとこんなに楽しいことがあるんだ!」と思えるような関わりを今後も増やしていきたいと考えております。

来店いただいたお客様、2つのイベントで全面的にサポートして下さったNPO法人「でいぐらぶ」の皆様にご心よりお礼申し上げます。またご一緒出来る機会を楽しみにしております。（田坂 瑠璃）

3年ぶりの法人全体行事 ～“お久しぶりでShow”を開催～

コロナ禍は利用者同士の交流が制限されるなど我慢の多い3年間でした。コロナ禍初期の2020年10月におこなった生活アンケートでは100名からの回答があり「会いたい人になかなか会えない」「趣味や娯楽を楽しめない」「孤独を感じる」と、感染対策ではあったものの人との繋がりをほとんど断たれている現状が浮き彫りになっていました。コロナ禍も少し落ち着いてきた2022年10月には再度アンケートをおこない、回答した65名のうち39名が行事の開催を望んでいることがわかりました。そこで、【事業所を超えた再会を実現し、みんなで楽しい時間を共有すること】を目的として、2023年3月17日に交流会を開催することにしました。今回は安全に考慮し各事業所をオンラインで繋ぎ、リモートでの開催としました。お久しぶり、と画面越しに会うことから交流会の名称は「お久しぶりでShow」としました。

みんなで楽しむために

自分の事業所を他の利用者に知ってもらうために事業所にまつわる3択クイズを利用者と一緒に作成しました。「どんな問題を作るのが良いのかな?」「分かりやすいのがいいかな?それとも難しいのがいいかな?」と利用者は楽しそうに問題作成に取り組んでいました。

誰がいるかな

当日は、「司会をやってみたい」と立候補した利用者の進行で行事がスタートし、画面に映る他の事業所の利用者を見て「久しぶりに顔を見たなー!」「元気そうで良かった」と知り合いの顔を見て嬉しそうな利用者の姿がありました。コロナ禍の日々では、各事業所との交流も少なくなっていたことから、改めて事業所紹介をおこないました。参加した利用者からは、「こんなことやってたんだ!知らなかった」といった声が上がリ、この3年間のお互いの頑張りを労い合うことができました。最後のビンゴ大会では、なかなかリーチにならなかったり、急にトリプルリーチになったり、「全然ビンゴしない」と話が出た矢先に「ビンゴしたー!」となり、それぞれの事業所で「おー!」と盛り上がりしました。

利用者の声

コロナ禍で交流の機会がすっかり減ってしまって、家でひとりで気分転換できる方法を色々試していましたが、やっぱり物足りなさを感じていて…。でも、久しぶりのおあしすの交流会に参加できて、みんなと楽しい時間を共有できるっていいなと実感しました。楽しみがあると生活に張り合いも出るし、仕事も頑張れるんじゃないかな。

(利用者 Aさん)



新しく入った職員を当てるクイズも!



ビンゴまで残りいくつ?

コロナ禍の3年間、法人内での活動が限定的になり他の事業所にいる仲間と交流する機会を十分に持てずにいました。利用者の活動の幅は思った以上に狭くなっていたのかもしれない。

今回は画面越しでの集まりになりましたが、利用者が仕事をしている時の真剣な表情とは違う楽しそうな表情を浮かべているのを見て、嬉しくなりました。離れていても会えるというオンラインの良さはありましたが、今年度は相手をそばに感じるものの出来る対面での行事を開催したいと思います。

(高橋 邦浩)